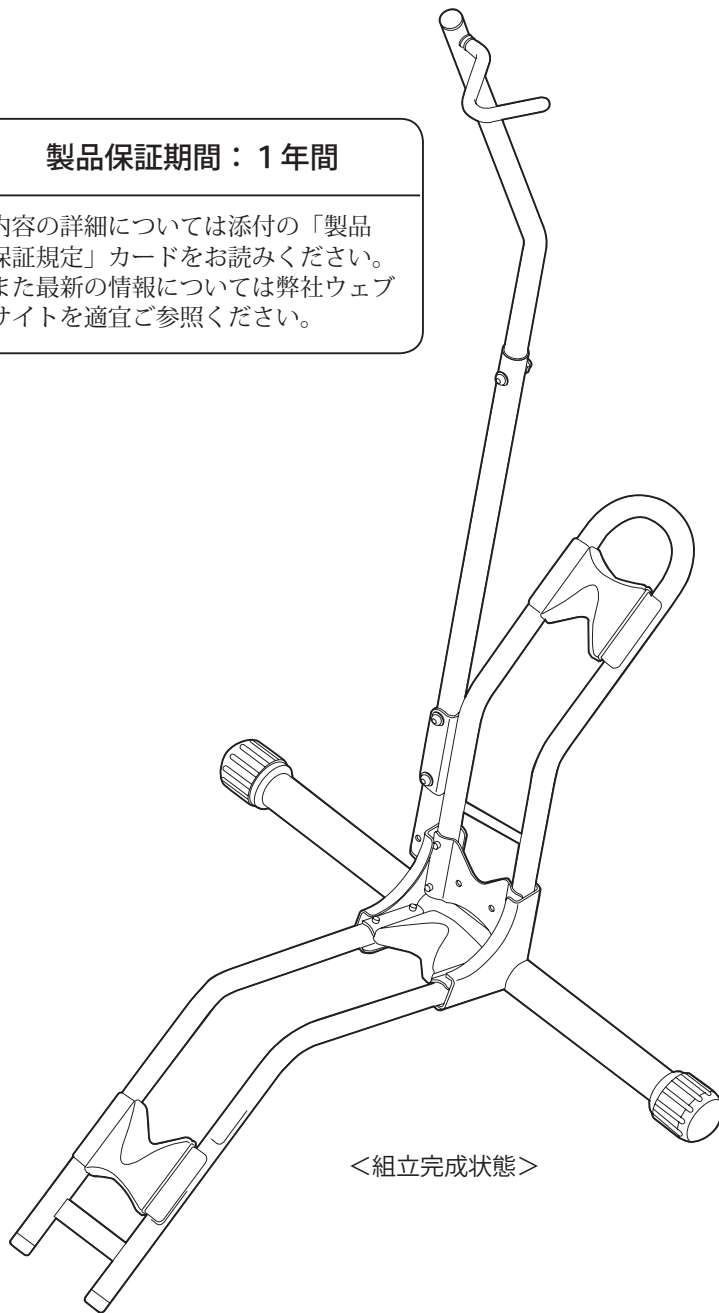


製品保証期間：1年間

内容の詳細については添付の「製品保証規定」カードをお読みください。また最新の情報については弊社ウェブサイトをご参照ください。



<組立完成状態>

注意していただきたいこと

- DS-2100 は自転車のみを支えるようにしか設計されておりません。DS-2100 に載せた自転車にまたがったり、スタンドの上に立ったりしないでください。
- DS-2100 は水平で平坦な床の上に設置してください。傾斜地では自転車が転倒してしまうおそれがあります。転倒事故防止のため、特に縦置きで自転車を立てて使用する場合は十分にバランスに注意してください。
- DS-2100 はタイヤの外周を3点で支える構造であり、3点が同時にタイヤに接していないと非常に不安定になってしまいます。ご使用前にまずタイヤ受け（特に前側のもの）をお使いになるタイヤサイズに合う正しい位置に調節してください（5ページ目を参照のこと）。またタイヤが床についてしまうような状態では使用しないでください。不安定になり転倒します。
- 自転車を縦置きにする場合は、後輪をタイヤ受けに収めて使用します。前輪を下にした逆立ち姿勢では使用できません。
- 横置きで自転車を保持する場合は、安定を増すため、できるだけ前輪ではなく後輪をタイヤ受けに収めることをお勧めしています。どうしても前輪で受けなければならない場合は、ハンドルはひねらず、車体と前輪はまっすぐにした状態でお使いください。
- タイヤ受けをステップバーに装着しにくい場合は、ステップバーをひっくり返して前後の向きを入れ替えてみてください。ステップバーは前後対称な形状ですから、どちら側を使用しても構いません。またタイヤ受けを止めるボルトは、まず先に4本すべてを軽く仮締めしてから本締めに移ってください。1本だけ固く締めてしまうと他のボルトが入らなくなることがあります。

問い合わせ先

もし何かわからないことがあった場合は、まずお買い求めになった**販売店**にお問い合わせください。もしそこで十分な情報やサービスを受けられない場合に限り、下記までお問い合わせください。

株式会社 箕浦（製造元）

〒 503-2305 岐阜県安八郡神戸町神戸 1197-1
Phone: (0584) 27-3131 / Fax: (0584) 27-7505
Mail: minoura@minoura.jp [営業]
infodesk@minoura.jp [カスタマーサービス]
URL: www.minoura.jp

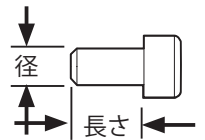
株式会社 フカヤ（販売元）

〒 460-0015 愛知県名古屋市中区大井町 1-37
フカヤビル 3F
Phone: (052) 228-8910 / Fax: (052) 228-8917
URL: www.fukaya-nagoya.co.jp

全体構成図

3種類の異なる部品セットが入っています。
ボルトの長さにご注意ください。

ボルトサイズの読み方



例) $M6 \times 30$
径 長さ
(単位：ミリ)

部品セット A (上支柱取り付け用)

- M6x30 ボタンボルト 1
- M6 平ワッシャ 2
- M6 袋ナット 1

A

ボタンボルト M6x30

部品セット B (下支柱取り付け用)

- M6x35 ボタンボルト 2
- M6 平ワッシャ 4
- M6 袋ナット 2

B

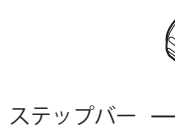
ボタンボルト M6x35

部品セット C (タイヤ受け取り付け用)

- M6x30 ボタンボルト 8
- M6 平ワッシャ 8
- M6 スプリングワッシャ 8

C

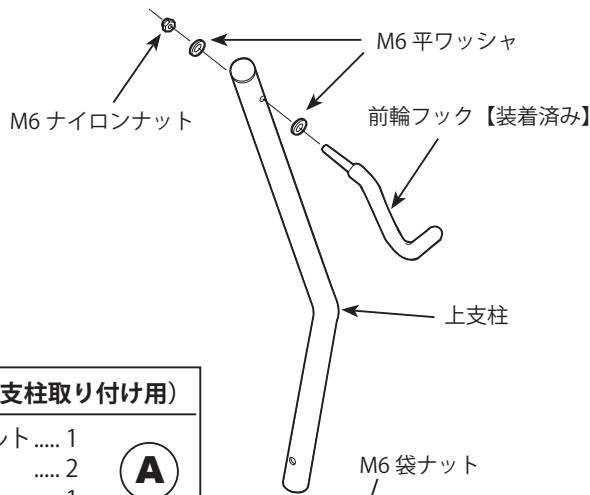
後側タイヤ受け【装着済み】



ステップバー

タイヤ受け枠 (後)

タイヤ受け裏板【装着済み】



M6 平ワッシャ

前輪フック【装着済み】

上支柱

M6 袋ナット

下支柱

M6 袋ナット

前側タイヤ受け【装着済み】

タイヤ受け枠 (前)

タイヤ受け裏板【装着済み】

補助脚

ボタンボルト M6x30

M6 スプリングワッシャ

M6 平ワッシャ

部品セット C (タイヤ受け取り付け用)

- M6x30 ボタンボルト 8
- M6 平ワッシャ 8
- M6 スプリングワッシャ 8

C

M6 平ワッシャ

M6 スプリングワッシャ

ボタンボルト M6x30

ゴムキャップ (29mm)【装着済み】

組み立てのしかた

必要な工具： 4ミリ六角レンチ x 1 (キットに添付されています)
10ミリスパナ x 1 (ご自身でご用意ください)

1

<準備>

まずタイヤ受け枠（前・後）にそれぞれ4つあるネジ孔すべてに M6 ボルトを通して、孔に入っているかもしれない塗料を取り除き、ネジ山をさらえておきます。

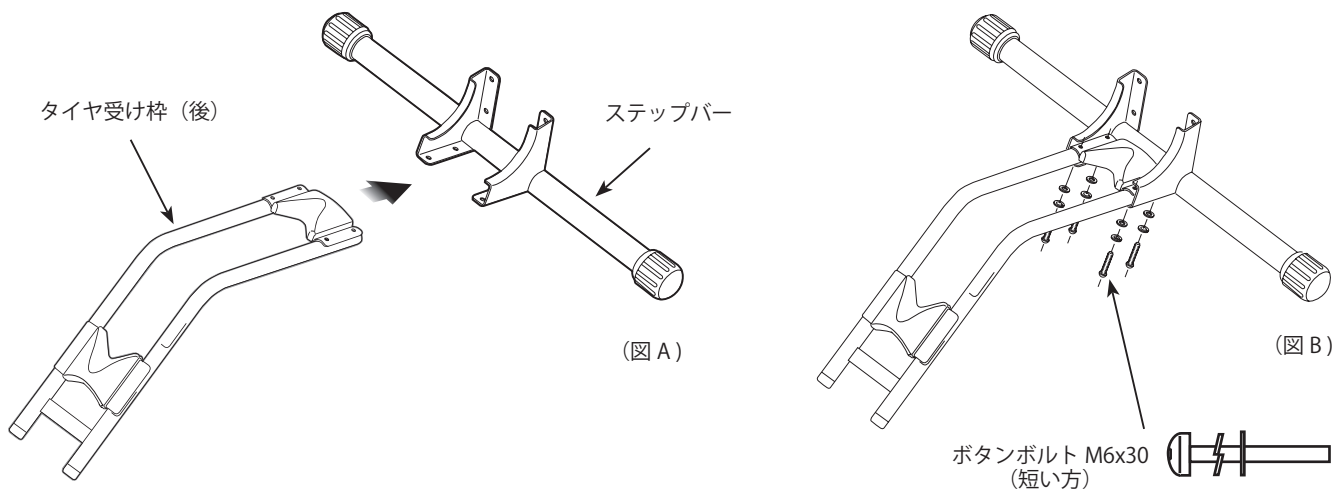
これをやらずにいきなり組み立てようとすると、ボルトのねじ込みで失敗してしまうおそれがあります。

2

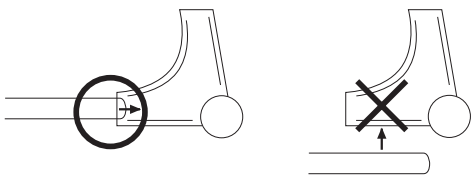
<タイヤ受け（後）の装着>

タイヤ受け枠（後）をステップバーに挿し込み（図 A）、部品セット C のボタンボルト M6x30 をねじ込んで取り付けます（図 B）。

ステップバーには指定方向はありません。



フレームはステップバーの金具の下に取り付けるのではなく、金具の中に差し込んで取り付けます。

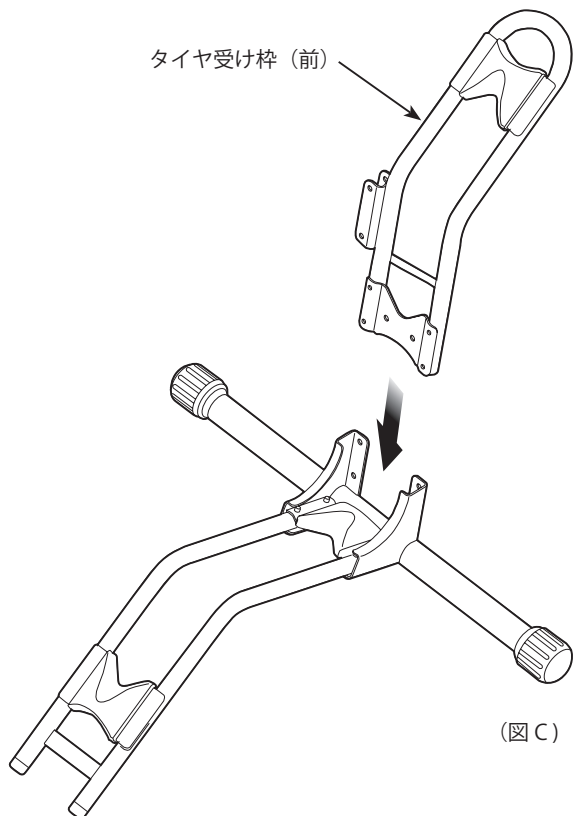


タイヤ受けを止めるボルトは4本を軽く仮止めして、すべて問題なくねじ込めることを確認してから、初めて本締めしていきます。
最初からいきなり本締めしていかないでください。

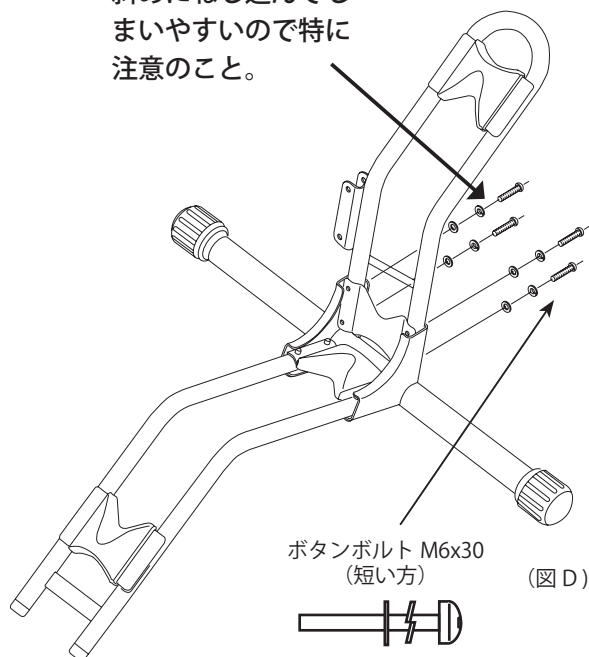


ステップバーは前後対称な形状です。
タイヤ受けがはめにくい場合は、前後を入れ替えて取り付けてみてください。

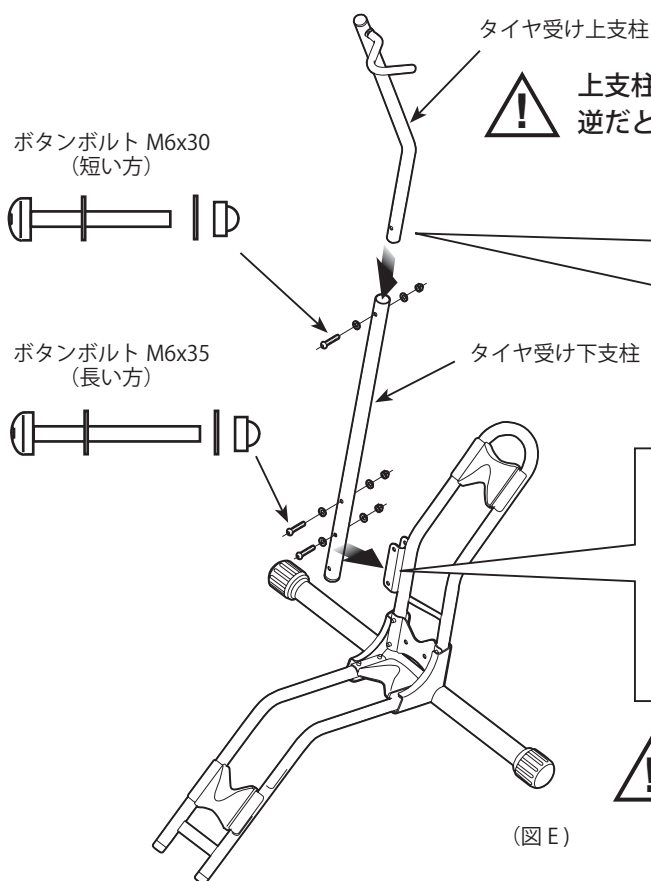
3 <タイヤ受け（前）の装着>
 続いてタイヤ受け枠（前）をステップバーに挿し込み（図 C）、同じく部品セット C のボタンボルト M6x30 を使って取り付けます（図 D）。



補助脚側はボルトを斜めにねじ込んでしまいがちなので特に注意のこと。



4 <支柱の取り付け>
 まず先に下支柱をタイヤ受け枠（前）の側面にある金具に部品セット A のボタンボルト M6x35 で取り付けます。続いて上支柱を図 E の向きで下支柱に挿し込み、孔と孔とを合わせてから、部品セット A のボタンボルト M6x30 を使って取り付けます。（図 E）



上支柱は必ず手前側に曲がっている方向で使用のこと。逆だと自転車を立てたときにバランスが取れず転倒します。

上支柱の下端に塗料が付き過ぎていて下支柱の中に入らないことが稀にあります。その際は支柱をお取り替えますので、お手数をおかけしますが、弊社までご連絡ください。

下支柱はボタンボルトを通す孔の組み合わせによって 2 段階に高さを変えることができます。一般的な 26 インチ～700c の自転車では、下側と真ん中の孔を使って取り付けます。小径車などホイールベースが短い車体の場合は上側の孔を使い、支柱を低くセットします。



29 インチなどさらにホイールベースの長い自転車では、オプションの延長パイプを上支柱と下支柱との間に装着します。

タイヤ受けの位置調整について

必要な工具： 5ミリ六角レンチ x 1 (キットに添付されています)

縦置きする際の注意事項です。

後輪ホイールは3つのタイヤ受けによる3点保持で支えられますが、この3点がすべて同時にタイヤ外周に接している状態でないと、載せた自転車が傾いてしまい非常に不安定になってしまいます。

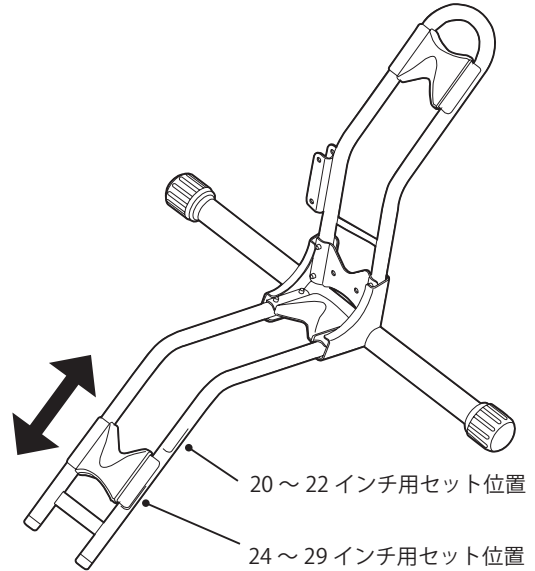
そのため、下側2ヶ所のタイヤ受けは基本的に動かさませんが、前側のタイヤ受けの位置は必ず正しく微調整してタイヤにぴったりと合わせてからお使いください。

1

いちばん手前側の後側タイヤ受けは、搭載する自転車のホイール径に合わせて、2段階にその装着位置を変更できます。

自転車のホイール径が24インチ以上であれば、後側タイヤ受けは最初のままの位置(下側のシールで表示されている位置)から動かす必要はありません。

もし20~22インチの小径車で使う場合は、タイヤ受け裏側のM6x20ボルトを5ミリ六角レンチで緩め、右側パイプに貼ってあるシールのL字線にタイヤ受けの金具の右下角が重なるように移動させてから、再びボルトを締め込んで固定します。



(図F)

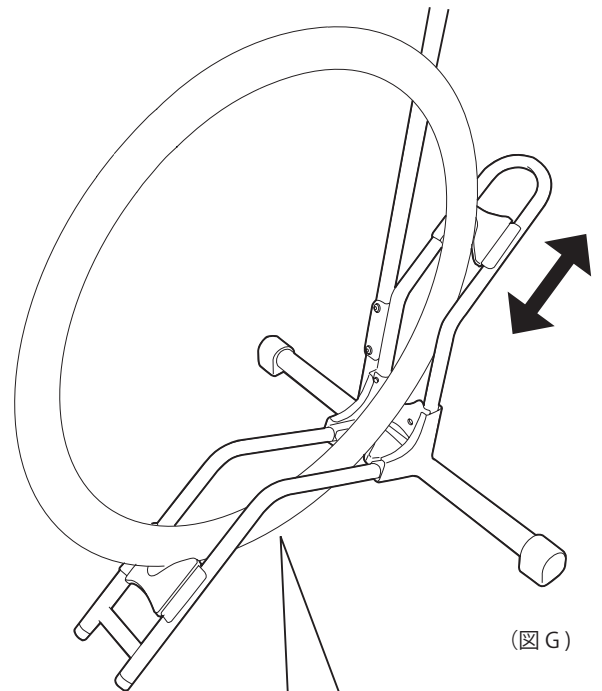
2

前側タイヤ受け裏側のボルトを5ミリ六角レンチで緩め、少し上にずらしておきます。

次に、後ろ側と中央の2ヶ所のタイヤ受けの上にホイールを載せます。

この状態のまま前側タイヤ受けをスライドさせてきて、タイヤ表面に接触したところでボルトを締めて固定します(図G)。

これでホイールは正しく3ヶ所で支えられます。



(図G)



○ 正常な状態

(図H)



△ あまりよくない

(図I)



× とてもよくない

(図J)

前側がタイヤを押し込んでいる

載せたタイヤが床面に触れない高さに保持できるように、後ろ側タイヤ受けの位置を決めます。



この調整は、搭載する自転車のタイヤサイズが変わる都度行なってください。

横置き

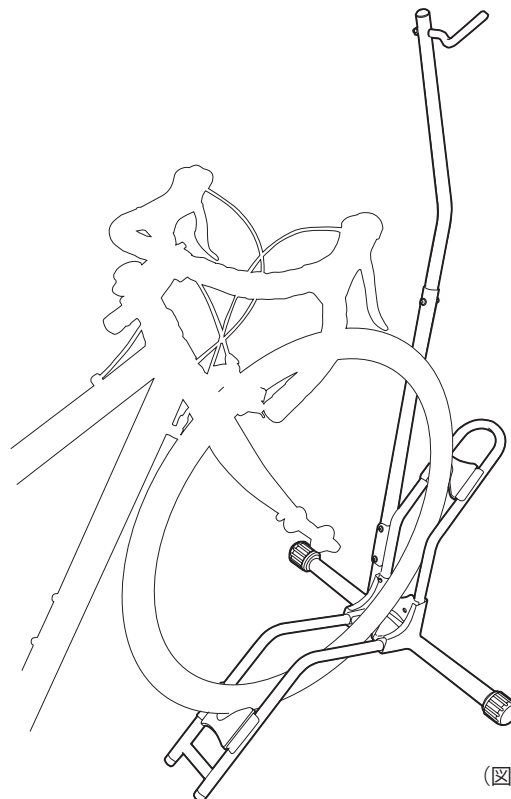
車輪をタイヤ受けに載せるだけ。(図 K)

仮置きするときなどに便利です。
前輪よりも後輪を保持させる方が安定します。

縦置きをしないのなら、支柱は取り外しておいても構いません。



前輪を載せて使用する際は、ハンドルを切って
車体を「く」の字にしないようにしてください。
車体が傾いて不安定になってしまいます。



(図 K)

縦置き

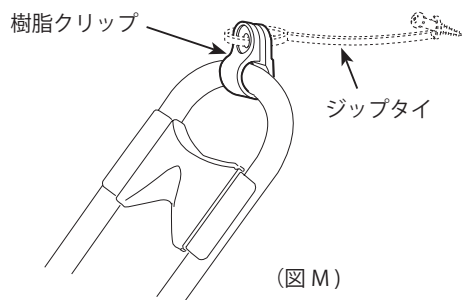
後輪をタイヤ受けに載せ、前輪を上部フックに
引っかけて立たせます。(図 L)

まず自転車を立たせてから後輪をタイヤ受けに載せ、
前輪をフックに近づけていき、リムをフックにくぐ
らせるようにして掛けます。
手を離す際は自転車がしっかりとぐらつきなく保持
されていることを確かめてから離してください。

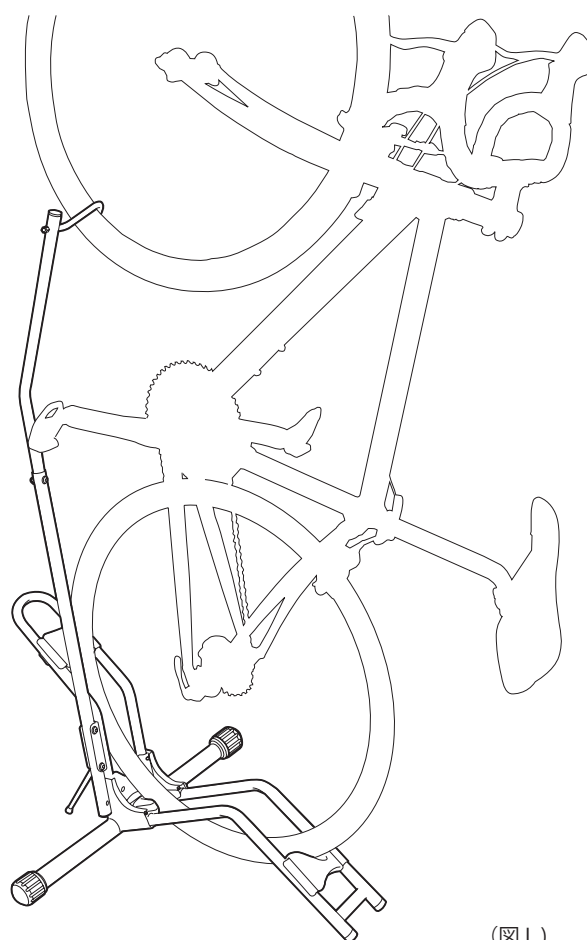
補助脚の先端が床から少し浮いているのは異常では
ありません。安心してお使いください。



壁際で使う際は、前輪をフックに掛ける際に
一時的にスタンドよりも前輪の方が前に出ま
すので、前輪を壁に当てないよう DS-2100 は
少し壁から離れた位置で使用してください。



(図 M)



(図 L)

DS-2100 を壁際で使うときで転倒を防止させたい場合は、添付の樹脂クリップをタイヤ受け枠の
前端に巻き、ジップタイを孔に通して引き絞ってから、壁にビス止めしてください。(図 M)
なおその際は壁板だけでなく、壁内側の構造材にねじ込んで抜けないように配慮してください。